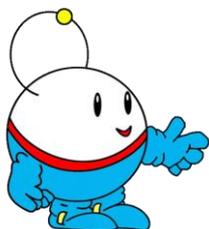
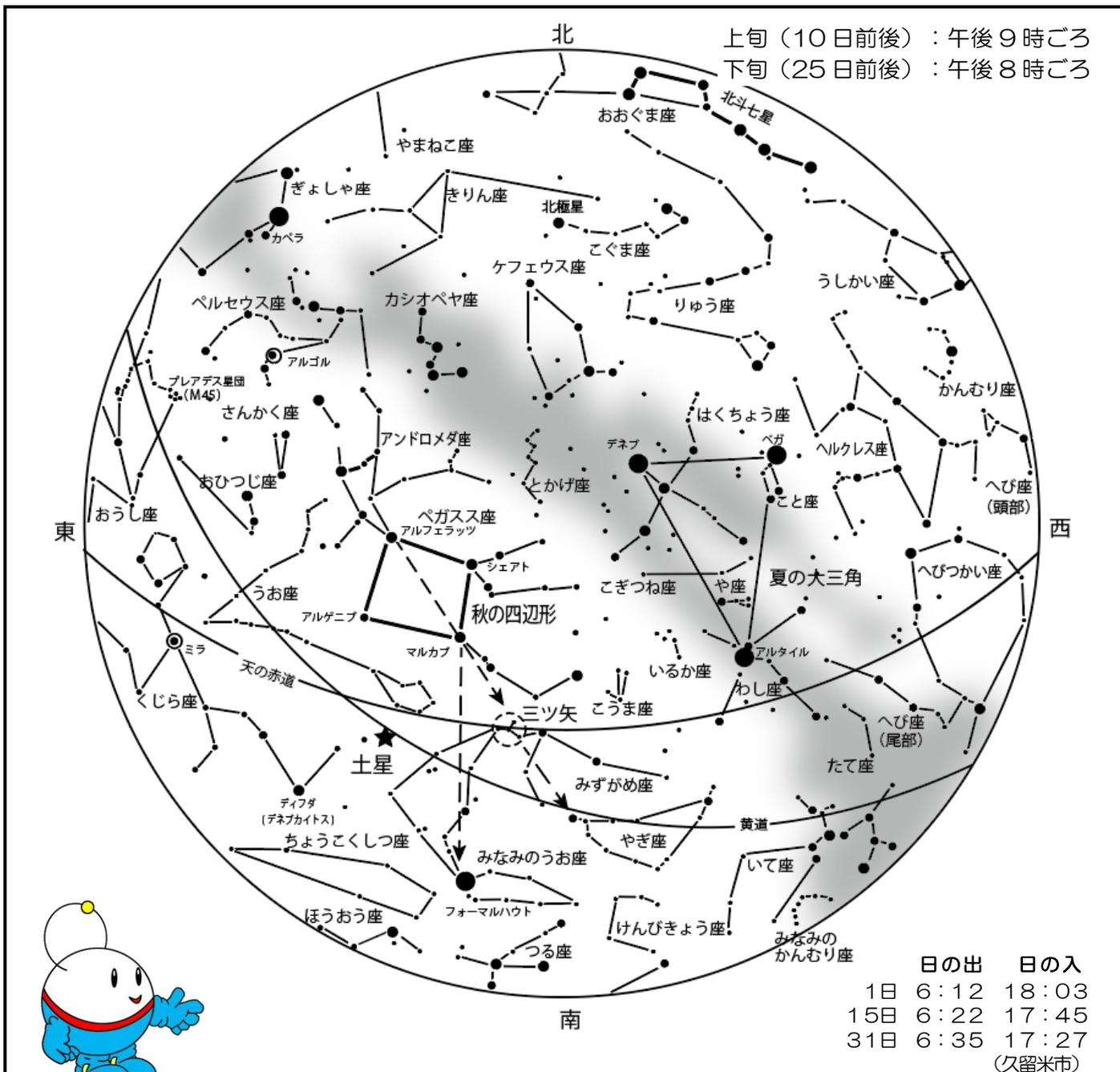


令和7年

# 10月の星空さんぽ

福岡県青少年科学館  
TEL0942(37)5566



日の入りの時刻もだんだんと早くなり、日増しに秋の深まりを感じるようになりました。この時期の夜空では、西の空にはまだまだ『夏の三大角』が見えています。そして、東の空には秋の星座が見えるようになりました。

秋の星座を見つけるには、南東の空にある四角形の星の並びを目印にペガサス座を探るところから始めましょう。アルフェラッツ・シエアト・マルカブ・アルゲニブの4つの星でつくる四角形の星の並びは『秋の四辺形』とも呼ばれ、秋の星座さがしの案内役になります。まず、シエアトとマルカブを結んだ線を地平線の方にのぼすと1等星のフォーマルハウトがあり、これを目印にみなみのうお座を見つけることができます。フォーマルハウトは『秋のひとつ星』とも呼ばれ、秋の星座の中では、ただ一つの1等星ですので、とても見つけやすい星です。次に、アルフェラッツとマルカブを結んだ線を地平線の方にのぼすとアルファベットのYの字のような星の並びを見つけることができます。この星の並びは『三ツ矢』と呼ばれ、みずがめ座を見つける目印になります。アルフェラッツとマルカブを結んだ線を三ツ矢からさらにのぼしていくと、逆三角形の星の並びを目印にやぎ座を見つけることができます。

10月は『秋の四辺形』をたよりに、秋の星座探しを楽しんでみてはいかがでしょうか。

《10月の天文カレンダー》

日	曜	天文現象	日	曜	天文現象
6	月	中秋の名月（十五夜）	21	火	オリオン座流星群が極大（21時）
7	火	○ 満月（12：48）			● 新月（21：25）
14	火	◐ 下弦（03：13）	30	木	◑ 上弦（01：21）

【惑星の見え方】（☆マークは、今月のおすすめです。）

水星（-0.2~-0.4等）	：おとめ座→さそり座	観望に適さない。
金星（-3.9等前後）	：しし座→おとめ座	観望に適さない。
火星（1.6等前後）	：おとめ座→てんびん座	観望に適さない。
☆木星（-2.1~-2.3等）	：ふたご座付近	日の出前、南東の空で輝く。
☆土星（0.6~0.8等）	：みずがめ座付近	夜遅く、南東の空で輝く。

注目の天文現象（10月） ～名月が満月とは限らない！？～

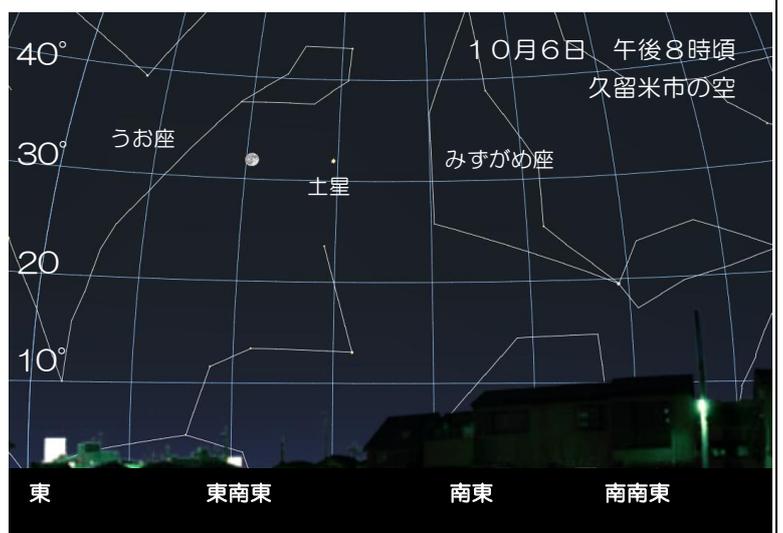
2025年の中秋の名月は、10月6日です。「中秋の名月」とは、旧暦の8月15日の夜に見える月のことで、中秋の名月を愛でる習慣は、平安時代に中国から伝わったと言われているそうです。

今年は10月7日13時頃に満月の瞬間を迎えるので、十五夜の宵空に白く輝く名月は、満月の半日ほど前になります。ちなみに、次に中秋の名月と満月が同じ日になるのは、2030年です。

また、今年は、中秋の名月の近くに土星が見えます。満月に近い月は、とても明るいため、土星（0.7等）はやや見づらいかもかもしれませんが、お月見の際には、土星にも気を留めてみてください。

さらに、日本独自の風習として、旧暦の9月13日の夜を「十三夜」と呼び、十五夜ほどの満月ではないものの、少し欠けた月が「趣がある」とされ、古来から親しまれてきました。十三夜は、月の形から「栗名月」「豆名月」と呼ばれたり、中秋の名月「前の月」に対して、「後の月（のちのつき）」、中秋の名月と合わせて「二夜の月（ふたよのつき）」と呼ばれたりしています。

今年の十三夜は、11月2日です。中秋の名月だけでなく、十三夜も合わせて楽しんで、二度の月見で秋を味わってみてはいかがでしょうか。



【ステラナビゲータ 11/株式会社アストロアーツ】

《天文イベントのご案内》

☆市民天体観望会 10月25日（土） 19:30~20:30 要予約



「秋の四辺形と土星を楽しもう」

■対象：どなたでも（ただし中学生以下は保護者同伴） ■定員：100名

■参加費：無料

■予約：10月11日（土）9：30から、オンラインにて予約受付中

プラネタリウムで星空解説の後、科学館屋上にて望遠鏡を使って天体の観察を行います。ぜひ本物をみる体験を！（天候不良の場合でも、星空解説は行います）



ご予約用QRコード